



公益財団法人

日本学術協力財団

Newsletter of Japan Science Support Foundation

ISSUE 44, January 2024

Newsletter



年頭の挨拶

公益財団法人日本学術協力財団
会長 吉川 弘之



新しい年、2024年を迎えました。今年はどんな年になるのでしょうか。

79年前に世界戦争が終わり、敗戦した我が国はこの戦争が戦場であるいは都市で多くの同胞の命を奪い、さらに原爆投下により多数の犠牲者が出たことに限りない憤りを感じながら、戦争の恐ろしさを深く感じると共に、再び戦争は起こしたくないと考え、その思いは我が国の平和憲法に結実した。

しかし世界ではその思いは次第に崩れ、世界の各地で局地的戦争や国際的対立が増えていく状況となり、ロシアのウクライナ侵略、ハマスのイスラエル攻撃に至り、使いたくない言葉であるが「本当の戦争」が起きてしまい、高度に進化した兵器と、市民を巻き込んだ市街戦となって、その悲惨さは極端な状況になってしまった。しかも核兵器の現実化も否定出来ない。この状況を終わらせる知恵はもちろん自分にはなく、一刻も早く終わってほしいと願うことしか出来ないが、自分が科学者として色々思索してきたことの中に、この危機から脱出するための知恵がすこしでも含まれていないだろうかと考えてしまう。

筆者が大学生の時、教養学部を終えて専門学科を選ぶ「進学振り分け」という行事で、各学科の教授が説明を行うのが習慣であったが、その時のことを今思い出している。工学部の学科のどれかに進学したいと考えて、建築、機械、電気学科などの説明を次々に聞いていたが、それぞれの専門学問と、関連産業との協力で日本の復興をするという時代の要請に忘れる内容の話である。そして精密工学科の順番となり、主任の大越諄教授が登壇する。精密な機械に必要な精度を実現する技術のための学問を作る学科、職人の技術のままでは世界に広がらず、学問にすることで、どんな国でも使うことが出来る技術になることが目的という。これはいい、進学しようかと考える。その時、一人の学生が「精密工学科は、元は造兵学科で、今はやめている兵器の研究はいつ始めるのですか」と質問する。すると教授は「私は二度と兵器の研究が行われないうちにここで見張っているのです」と答えた。この教授は物理系の専門で兵器研究の経験はない教授であったが、その言葉に打たれた筆者は、精密工学科に進学しようと決める。

this issue

年頭の挨拶
『学術会議叢書』の出版
日本学術会議地区会議について
学術関係団体事務支援
データベース学会名鑑
寄附金・賛助会費の所得税控除等
について
出版物のご案内

公益財団法人日本学術協力財団は、賛助会員と助成金・寄附金を拠出いただいた方々のご厚意により、運営されています。

— 編集・発行 —

公益財団法人
日本学術協力財団
〒107-0052
東京都港区赤坂 4-9-3
TEL 03-3403-9788
FAX 03-5410-1822
URL <http://jssf86.org/>

2024年1月1日発行

現在は平和憲法をしっかりと守ろうという政治でもなく、兵器の研究開発は大学では行われていないが、産業では行われている。科学者は戦争の人類に対する損害の大きさを知っているが、その知識が戦争の抑止に有効に働かないのはなぜか。伝統的な平和研究があるのに、それは広がらない。哲学者カントは批判哲学、さらに国際連盟の根拠になった『永遠平和のために』を書いているのに、現在、その後継者がいないのはなぜか。

今、専門領域を持つ科学者として、何を考えるのか、この混乱した世界において、どのような行動をするべきなのか、科学者コミュニティの責任はなにか、自分の専門の中だけで発言するのではなく、反戦という非現実的な言葉を共有するのでもなく、学問という、人類共通の知識を作る責任を負ってそれぞれ固有の思索を行っている科学者が、それぞれの行為で何を語るかを改めて考えることが必要な時代となったのかもかもしれない。

学術会議叢書 31

『女性の政治参画をどう進めるか』(仮)の出版について

財団では、学術及びその成果を広く一般に普及するため、日本学術会議の部や委員会・分科会において審議された内容や、公開講演会など各種シンポジウムの記録を基に編集を行い、最新の知見を加えて、『学術会議叢書』を刊行しております。

令和5年度は、『女性の政治参画をどう進めるか』(仮)と題する叢書を発行いたします。

女性の政治参画は、戦前の婦人参政権を求める婦選運動から、現在のクオータ制を求める女性運動まで、女性たちの様々な活動が重なりつながら、展開されてきました。

本書では、日本における女性の政治参画をどう進めるかを検討するとともに、男女共同参画に関連する法律の検討に携わってきた研究者より、その法律の成立背景と推進状況を寄稿していただく予定です。さらに、海外での事例も紹介し、日本と比較することで、日本の現状を見つめ直すことも企画しています。

様々な立場からの専門知を集結して、女性の政治参画をどう進めるか、学術的視点から考察する一冊になると期待されます。現在、2024年2月の発行に向けて、鋭意、作業を行っております。是非、ご期待ください。

なお、本叢書につきましても、例年と同じく、公益財団法人一ツ橋総合財団から助成をいただき、全国約1,500か所の国公立図書館、大学図書館等に寄贈することになっております。

内容ならびに執筆者は、下記の通りです。

【目次】

巻頭言 上智大学法学部教授 三浦まり

第一部 政治分野における男女共同参画推進法の成果と課題

三浦まり／大山礼子／大倉沙江・江藤俊昭／永野ひろ子／濱田真里／内藤 忍／中川正春

第二部 海外の事例

糠塚康江(フランス)／武田宏子(イギリス)／申琪榮(韓国)／

馬場香織・リヴィ井手弘子(メキシコ)／杉田弘也(オーストラリア)／庄司 香(アメリカ)／

辻 由希(カナダ)／遠藤 貢(ルワンダ)

第三部 法律・条例を作る、実施する

辻村みよ子(男女共同参画社会基本法)／^{オランダ}鳥蘭格日樂(男女雇用機会均等法を中心とした労働法)／皆川満寿美(女性活躍推進法)／二宮周平(家族法(選択的夫婦別姓を含む))／

後藤弘子(刑法(性犯罪))／立石直子(DV法)／戒能民江(女性支援)／

三成美保(LGBT理解増進法)

(すべて予定、敬称略)

日本学術会議地区会議の 公開講演会開催に対する支援

財団は、日本学術会議の各地区会議が開催する下記の学術講演会について、開催に係る支援を行いました。

◎北海道地区会議主催

「人間と野生生物の共生のために
—北海道の最新研究と実践—」

2023年11月18日(土)

於・北海道大学学術交流会館

対面・オンライン併用開催

◎中部地区会議主催

「微生物がつなぐ文理融合研究
—野生酵母クラフトビールと地域振興—」

2023年12月15日(金)

於・静岡大学静岡キャンパス

対面・オンライン併用開催



学術関係団体事務支援事業

【日本農学アカデミー】

2023年11月11日(土)、東京大学弥生講堂及びオンラインのハイブリッド形式にて、シンポジウム「東日本大震災がもたらした食料問題—福島県の現状と課題—」が開催され、財団がその支援を行いました。



データベース学会名鑑 —令和5年度実態調査について

「学会名鑑」に掲載するデータは、日本学術会議が毎年度「協力学術研究団体」を対象に行う実態調査を基としています。

同会議においては、令和5年度においても協力学術研究団体向けの実態調査を予定しています。各学術団体の関係者の皆様におかれましては、学協会の活動を発信するとともに科学技術情報の効率的な流通を目的として、引き続き、本事業にご協力くださいますようお願い申し上げます。令和5年度調査は、本年1月中旬に行われる予定です。

なお、新システムに向けて改修工事中でした「学会名鑑」の運用も、日本学術会議ホームページ上で開始される予定です。

寄附金及び賛助会費の税額控除について

公益財団法人である弊財団に対する賛助会費・寄附金は、特定公益増進法人への寄附金として、確定申告により税額控除等の税制上の優遇措置を受けられます。

個人の方の弊財団に対する賛助会費及び寄附金につきましては、確定申告により、所得税の**税額控除**または**所得控除**のいずれかを選択して受けることができます。

また、本年1月1日現在、東京都にお住まいの方は**個人住民税の税額控除**を、東京都港区にお住まいの方は**特別区民税の税額控除**も、確定申告により受けることができます。

法人の場合は、法人税について、一般寄附金の損金算入限度額とは別枠で、特定公益増進法人に対する寄附金として特別損金に算入できます。算入限度額を超えた分は、一般の寄附金に係る損金算入限度額に算入できません。

昨年1月1日～12月31日までにいただいた賛助会費・寄附金につきましては、本年の確定申告の際に必要な領収証等を、昨年12月～本年1月上旬にお送りいたしました。

(本年1月以降に賛助会費をお振込みいただいた場合は、本年12月初旬頃に書類を送付する予定です。)

控除の限度額等の詳細につきましては、最寄りの税務署にお問い合わせください。



学術会議叢書 30
※お申込みは FAX にて
03-5410-1822

A5 判、264 頁
1,980 円 (税込・送料別)
賛助会員は割引価格
1,782 円 (税込・送料無)

出版物のご案内

※お申込みは FAX にて 03-5410-1822

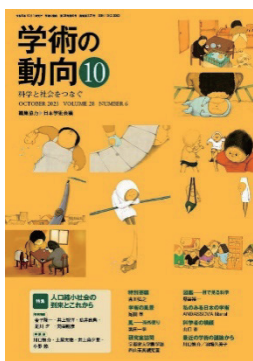
品切れを除く近刊の書籍については
Amazon からもお買い求めいただけます。

学術の動向

『学術の動向』は、令和 5 年度より、季刊化いたしました。
年 4 回 (4 月・7 月・10 月・1 月) 発行し、判型を B5 判に改めました。

B5 判・価格 1,650 円 (税・送料込)
年間購読 6,006 円 (税・送料込)
賛助会員は毎号 1 冊無料配布

令和 5 年 10 月号特集『人口縮小社会の到来とこれから』
[特別寄稿] 金子隆一／井上智洋／広井良典／是川夕／苜谷剛彦
[特別寄稿] 日本学術会議第 17 期・第 18 期会長 吉川弘之



学術会議叢書

A5 判 1,980 円 (税込・送料別)
賛助会員は割引価格 1,782 円 (税込・送料無)

- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| 2 科学技術教育の国際協力ネットワークの構築 | 23 子どもの健康を育むために |
| 9 医療事故は予防できるか | 24 〈いのち〉はいかに語りうるか? |
| 12 どこまで進んだ男女共同参画 | 25 IT・ビッグデータと薬学 |
| 16 食の安全を求めて | 26 社会脳から心を探る |
| 17 ダーウィンの世界 | 27 持続可能な社会への道 |
| 18 科学を文化に | 28 日本の食卓の将来と食料生産の
強靱化について考える |
| 20 放射能除染の土壌科学 | 30 「人間の尊厳」とは—コロナ危機を
経て— |
| 22 地殻災害の軽減と学術・教育 | |

日学新書

新書判 825 円 (税込・送料別)
賛助会員は割引価格 743 円 (税込・送料無)

- 2 感覚器 [視覚と聴覚] と社会とのつながり



◎ 当財団の運営、ニュースレター等に関するご意見、ご要望がございましたら、当財団総務担当までお寄せください。

今後の参考にさせていただきます。皆様方のご意見、ご要望をお待ちしています。

公益財団法人日本学術協力財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-3

TEL 03-3403-9788

03-5410-0242

FAX 03-5410-1822

URL <http://jssf86.org/>